

## 「愛のかたち」

エフェソの信徒への手紙 3章 16節～21節

この朝は、いつもであれば、「平和記念礼拝」で、お一人の方から「平和」についてのお証をしていただく日ですが、止むを得ず取り止めとなりました。

平和を考えると、私たちはただ戦争や争いがないことではなく、そこに常に愛が保たれている状態のことを言います。愛がなければ、そこにあるのは、見下し、差別、暴力や争い、戦争さえ起り、もはや平和とは呼べません。

今日は、「愛の形」「キリストの愛の形」が描かれている「エフェソの信徒への手紙」のみ言葉に思いを寄せたいと思います。ここに描かれている「愛のかたち」は、私たちが目にする「ハート」ではありません。

この手紙が書かれた時、パウロはローマに投獄され、その獄中からエフェソの信徒にこの手紙を宛てました。牢獄のなかでパウロの心を占めていたのは、熱い祈りでした。その祈りの一つ、18節を見てみますと、このようにあります。

**「また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの「愛」を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」**

この祈りは、全てのクリスチャン、全ての教会へのパウロの願いでした。

パウロは、このキリストの愛を、いつでもすぐに思い起こせるように、形あるものとして知って欲しいと願っています。

恐らく主イエスの「十字架」を心に浮かべながら、パウロは、この祈りをしていたのでしょう。礼拝堂の正面にもありますが、十字架には二本の柱の木が組み合わされています。

初めに、十字架の横の柱を見てください。左右に渡る柱に、2つのものを見ることができます。一つは「広さ」を、もう一つは「長さ」です。パウロは それを「愛の広さ」、「愛

## 2

の長さ」と呼びました。

「愛の広さ」とは、どんな広さでしょうか。キリストが両腕をいっぱい横に広げている姿を思い浮かべて見てください。それはすべての人に対する「主の愛」をあらわします。

神は、初めにご自身が選ばれたイスラエルの民に、ご自分をあらわされました。救いは、このイスラエルの民に伝えられ、イエスはこの民のもとに遣わされました。しかし、この民はイエスを、神の救いを、愛を受け入れようとはしませんでした。やがて、救いの福音は、ユダヤ人だけではなく、パウロによって異邦人にもたらされ、世界中に伝えられるようになりました。そして、私たちにも・・・。

キリストの愛の広さは、誰にでも、神に敵対していた者にまでも注がれる愛です。私たちは、かつては神から離れ、勝手気ままな道を歩んでいました。神に敵対していた者です。その私たちに、神はご自分の御子イエスの十字架の死を通して「愛」を示されました。キリストが、私たちと神との間を隔てていた敵意という壁をご自分の死によって打ち壊して下さったからです。もはや、キリストの愛の広さから、洩れる人はいないのです。この愛は、あなたをすっぽりと包み込むのに十分な広さです。

\*愛に「広さ」のあるところに、人は自分が除外されていると感じることはありません。自分がふさわしい者とは思えない時でも、そこにいることが許されていると感じます。この愛の広さとは、理由なく私たちが愛されていることを感じさせる愛です。

十字架の横の柱の、もう一つは「長さ」。水平線のようにどこまでも続く「愛の長さ」です。終りのない長さ、「永遠」という長さです。変ることのない、切れ目のない愛の長さです。第1コリント13章には、有名な愛の性質が挙げられています。「**愛は忍耐強い。愛は情け深い。**」から始まって、「**すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。**」とあります。愛がどこまでも続いていくものであることが分かります。

一番初めに出て来る愛の性質が、「忍耐深い」です。なぜ、でしょうか。愛は変わりや

### 3

すい、途切れやすいものであってはならないからです。愛が完全な勝利を獲得するためには、長い時間試され、テストされ、試練を受けます。どこまで続くのか、途中で冷めてしまうのか、愛は「とき」、時間の長さによって試されます。ずっと愛であり続けるのが、正真正銘の「愛」です。

愛が、長さを保つためには、「人を赦す」という強い行為が必要です。赦すことがなければ、愛はすぐに行き場を失ってしまいます。愛に赦しが伴う時、愛は忍耐深く、**「すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」**とある通りです。

\*この愛は、決して人をあきらめない長さです。人をすぐ裁くことをしません。この愛はいつまでも人を待ち続けます。今、彼が、彼女がどんな人間かではなく、その成長に目を向けて待ち続けます。愛は、人にやり直しのチャンスを与えます。**「主は遠くから私に現れた。『永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに真実の愛を尽くし続けた。』」**（エレミヤ 31:3 新改訳聖書）」この愛の長さは、今もあなたに向けられています。

では、「横の柱」の次に、「縦の柱」に目を向けましょう。2本の柱が交わる中心から、上に向かっていく柱は「高さ」を、また、下に降っていく柱は、「深さ」をあらわします。そこに、「愛の高さ」「愛の深さ」を見ることができます。

「愛の高さ」とは、「神の愛は、崇高である」という意味でしょうか。確かに、そのように表現されても間違いではありません。しかし、ここでいうキリストの「愛の高さ」は、それだけではありません。罪のゆえに墮落してしまった人間を、神のみもとにまで引き上げる、その高さを意味しています。罪のゆえに、神から離れ、神との交わりから閉ざされ、罪の故に墮ちるところまで墮ちてしまい、絶望するしかなかった私たちでしたが、**「しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、— キリスト・イエスによって共**

*に復活させ、共に天の王座（神の御座）に着かせてくださいました。（エフェソ 2:4～6）」*

その高さです。

罪の重力によって墮ちるところまで墮ちていかなければならなかった私たちを、キリストは、しっかりと受け止めて下さった。しかも、受け止めて下さっただけではなく、罪の重力に打ち勝って、天の所にまで私たちを引き上げて下さいました。キリストは私たちを「罪の底」にずっと置いたままにはなさいませんでした。文字通り、ドン底から引き上げて下さったのです。それは、私たちが神との交わりの席に座るためでした。

\*愛の高さは、人の弱さや欠点にだけ目を留めることはありません。むしろ、その人の長所、神が与えられた賜物に目を向けます。この愛はいつも人を高めます。人を自分の足元に置いておくことをしません。その人を引き上げて、その人との親しい交わりを求めます。それが「愛の高さ」です。

最後に、十字架の中心から上に向かっていく「愛の高さ」に対して、下に降っていく柱は、「愛の深さ」です。この地球上で一番深いところは、どこでしょうか。海の底です。光さえも届かない暗黒の世界です。暗闇でおおわれ、希望のないところ。生き物もわずかです。そこには「命」と言うものを思い浮かべることができるものは何一つありません。海の底はちょうど、神によって創造された人間が、神に背を向け、自分の道を歩み続け、神から一番遠く離れたところ－永遠の死－を意味するところでもあります。しかし、イエスは、暗黒の漂う罪から－永遠の死から－私たちを救うために、その一番深い暗闇の罪の世界にまで、降りてくださったのです。

*「キリストは、・・・ご自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現われ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死にまでも従順でした。*

*（フィリピ 2:7,8）」*「愛の深さ」を伝えるみ言葉です。

永遠に生きることができる、神の御子であるキリストが、限りある人の姿になり、十字架

で死ぬために、この世に下って来られた。それがキリストの愛の深さです。

\*愛の深さとは、無関心ではいられない愛です。この愛は他の人の問題を自分の問題とします。そうするために、その人のいる所にまで、降りて行こうとする愛です。「下僕」となって人に仕える姿が見られる愛です。この愛は、人を謙虚にする愛です。イエスは、「わたしは仕えられるためではなく、仕えるために・・来た。」(マルコ 10:45 参照)と語られたその方です。

パウロは、十字架を通して示された、「このキリストの愛の広さ x 長さ x 高さ x 深さがどれほどであるか理解し・・知り、つまり体験し・・満たされるように・・」と祈りを続けます。

私たちの全てを包み込んでくださる「キリストの愛の広さ」

私たちを離れず、決して見捨てることをなさらない「キリストの愛の長さ」

私たちを「神の子の身分」にまで引き上げてくださった「キリストの愛の高さ」

私たちを罪から救い、二度と罪の深みに舞い戻らせないために、

へり下って天の御国から降りて来てくださった「キリストの愛の深さ」。

「このキリストの愛が、あなたに充滿していることを知ってほしい。」とパウロは祈ります。ですから、「この愛の広さ、長さ、高さ、深さのゆえに、この愛をまずあなた自身にしっかりと向けてほしい。そしてこの愛に生きてほしい。生き続けてほしい。」と、今日のみ言葉は、私たちに語っているのです。

#### 祈り

私たちを広く、長く、そして、高く、深く愛してやまない主なるイエスさま。

今朝も、十字架を見上げ、あなたのみわざを憶えて感謝いたします。

あなたの愛のゆえに、私たちが愛の人、平和の人、平和をつくる人となるよう、

私たちのうちにいつまでも臨んでください。

主イエスのお名前です。